

### 1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	2274202502		
法人名	(株)日本ケアクオリティ		
事業所名	グループホーム草薙織音		
所在地	静岡県静岡市清水区草薙2丁目22-10		
自己評価作成日	平成 28年 11月 6 日	評価結果市町村受理日	平成29年1月13日

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	<a href="http://www.kaijokensaku.jp/22/index.php?action=kouhyou_detail_2016_022_kani=true&amp;JigyosyoCd=2274202502-00&amp;PrefCd=22&amp;VersionCd=022">http://www.kaijokensaku.jp/22/index.php?action=kouhyou_detail_2016_022_kani=true&amp;JigyosyoCd=2274202502-00&amp;PrefCd=22&amp;VersionCd=022</a>
----------	---

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	株式会社 静岡タイム・エージェント		
所在地	静岡県静岡市葵区神明町52-34 1階		
訪問調査日	平成 28年 12月 12日		

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

<p>2ユニットを1つの家族と考え、共に支え合い笑顔がたえない生活を目指しています。スタッフ一人一人が、入居者と生活を共にしていることを、意識しゆっくりと関わりを持つようにし、落ち着いた環境でゆっくりとコミュニケーションをとり、看取りも行う状況になってきていますので、一人一人の方に応じた支援を行っています。</p>
--

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

<p>管理者と職員は、研修や資格取得希望の協力や、先輩職員から受け継がれたお互いを気遣う人間関係の良さがあり、産前産後の休暇や子育てにも協力的で、2人生んでも職場復帰する人がいて継続勤務が多い。協力医は24時間対応で利用者の健康管理が行われ、毎日誰かのところへ往診に来るので、突発的に具合が悪くなった人も診てもらえ安心である。海外在住の家族に同室で滞在できるように配慮し繋がりを大切に支援している。運営推進会議へ地域住民の参加が多く、参加者が将棋ボランティアで来てくれたり、歌やおどりで継続して交流している。1・2階の利用者と職員は日常的に交流し、2階の利用者が1階に洗濯に來たり行き来をしている。月・水・金の夕食時にビールを飲む人の席位置を配慮する等個別の要望に応える対応をしている。</p>
---

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1～55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印	項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印
56 職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○ 1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんど掴んでいない	63 職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	○ 1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57 利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○ 1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64 通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○ 1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58 利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65 運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○ 1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くない
59 利用者は、職員が支援することで生き生きした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66 職員は、生き活きと働いている (参考項目:11,12)	○ 1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60 利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67 職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61 利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68 職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○ 1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62 利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らしている (参考項目:28)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない		

自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>I. 理念に基づく運営</b>					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	職員全員で地域に繋がる理念のアイデアを出し合いその中から色々な言葉を集め作りました。日々申し送り時に会社の企業信条と共に復唱しています。	「地域と育む暮らしの和 元気よく 笑い声ひびくわが家 わが町」の理念は全職員で案をだし話し合っ作り、新人には研修時に説明している。地域との繋がりを大事にし、その人らしく楽しく過ごせるように実践している。	
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一人として日常的に交流している	利用者様と近くのお店に買い物に出かけたり回覧板を届けたり散歩の途中やホーム前に出ていると声をかけられたりします。	運営推進会議に地域住民の参加が多く、参加者が将棋ボランティアで訪問してくれたり、地域行事に声を掛けてくれる。散歩や近隣のスーパー・薬局へ買い物に出かけ、挨拶を交わしている。手作り野菜のおすそ分けがある。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	運営推進会議を2か月に1度開催し毎回地域の方々が参加して下さり、そのつながりもあって入居相談を頂くこともあります。	/	/
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	ホームの近況報告などお伝えして、ご参加の方々から質問やアドバイスなどを頂きます。	地域の自治会長や女性部など住民の参加が毎回多く、地域の情報を提供してくれたりアドバイスを受けている。会議に合わせサポーター養成講座を実施し好評だった。家族の来所時に出席を依頼しているが参加は少ない。	議題の工夫と家族と行政との開催曜日等を検討し、必要なメンバーの参加を得て、事業所にとってより良い会議の開催に期待したい。
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	必要時に連絡を取りながら協力をお願いしています。	地域包括で3・4ヶ月ごとにグループホーム連絡会があり、他施設の情報を聞いている。生活支援課とは生活保護受給者の生活支援で連携している。	
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	職員に周知し、拘束は行っていません。	年4回ホーム内で認知症と拘束の研修、話し合いをし、拘束について周知をしている。職員にヒヤリハット報告をだしてもらい、事例を現場検証して、事故に繋がらない為に対策を話し合っている。玄関・扉に施錠はなく動きを見守って拘束をしない介護を実施している。	

静岡県(グループホーム草薙織音)

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見逃ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	職員同士、意見を交わしながら防止に努めています。		
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	利用者の個人の必要性に応じて対応しています。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	契約時に書面をお渡しして説明し、ご理解、納得された後にサインを頂いています。		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	外部評価実施、意見箱設置、ご家族様ご面会時に状態や状況などお話し、ご相談があればその都度対応しています。	家族の面会時に日常生活を伝え、意見や要望を聞いて、聞いたことを月1回の定例会や委員会で対応を検討している。利用者の日頃の様子から要望を掴み、出来ることは即対応するように記録に取り、話合っ家族と相談している。	
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	月に1度ホーム会議を実施、カンファレンスも必要時に開催し意見を出しあっています。それ以外にも必要があれば、開催します。	職員は委員会で話し合い、部品の調達や利用者の希望を上げて、麺の日やおにぎりの日を設けるなどの食事の提案を実施している。ドライブや外食など利用者の喜ぶレクなど話し合っ反映させるようにしている。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	月に1度管理者会議を本社にて開催し、ホームの状況や職員の状態などの報告をしています。本社のセルフストレスチェックも実施しています。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	勤務しながら資格取得の研修参加、ホーム内での職員主導の研修会、ホームDrの研修会実施など。		

静岡県(グループホーム草薙織音)

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	地域包括の主催で3か月に一度、有度地域のグループホームを対象に情報交換を実施しています。		
<b>II. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援</b>					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	入居時にご本人様との面談にて色々お話を聞きながら、希望や、訴えを傾聴してプランを立てて、職員と共有して達成できるようにしています。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	ご家族様からのお話を細かくお聞きして、希望に添える様にプランを立てていきます。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	入居1か月でプランを見直し、入居時の希望に添っているか、今後の必要なプランも合わせて考えていきます。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	日々の中で一緒に家事をしたり、買い物のお手伝いをして頂いたり、食事や入浴時にもコミュニケーションをとりながら過ごしています。		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	月次報告やご面会時など、ご家族に状況などをお伝えし、ご家族からもご要望等お聞きしています。必要であればお泊りもして頂きます。		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	ご親戚やお友達などご面会は自由にして頂き、愛犬共一緒に暮らす事が出来ます。	友人や近所の人が来た時又来てもらえるように声を掛けている。長く住んでいるうちに毎日見る人やよく顔を合わせる利用者同士・職員・ボランティアなどが馴染みの関係になってきている。	

静岡県(グループホーム草薙織音)

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	日々の交流を大事にしています。1・2Fの利用者様共にご本人の意思を大事にしながらレクリエーションを実施したり、各ユニットでも利用者様同士の雰囲気が懸念される時は階を移動したりして空気を変えます。		
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	退去にご相談があれば支援に努めさせて頂いています。		
<b>Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント</b>					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	個々の利用者様のお話や訴えをお聞きして出来るだけ思いを受け止められるように努力しています。ご本人の行動などからもくみ取れるように職員間で話し合っています。	入浴時や個々の散歩時の1対1の時に話を聞けることがあり、聞いたことはケース記録に記入し職員で共有している。表出困難な人は日常の表情や行動などで思いを感じ取り、その人らしく検討している。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	入所時にアセスメントをとり今までの生活状況を把握して、ご家族や友人の方からも情報を聞くことが出来ています。ご本人との会話の中からも伺う事が出来ます。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	日々の観察や、関わりを通してその方の状態の把握に努めています。		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	定期的カンファレンスを実施して状態に添った計画に努め、変化も見ながらその都度、話し合いケアの方法など意見を出し合います。	ユニット毎でカンファレンスを開き、担当職員や他の職員からの意見を聞いている。日常生活の中で状態を把握し、必要な支援を話し合い介護計画を作成している。家族とは話し合うこともあるが意向は聞いていて、計画書で説明し確認をもらっている。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	ケース記録を関わりで記録し、支援日誌からケース記録を参照し詳細を把握します。申し送りノートなども活用して情報を共有統一しています。		

静岡県(グループホーム草薙織音)

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	状態に変化が見られた時など、その都度話し合っって方向を考えます。		
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	サレジオ学園の生徒さんたちが年間を通して行事の時に訪問して下さり、他のボランティアさんたちの協力も頂いています。		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	以前よりのかかりつけ医、新たな提携医の往診により診療して頂いています。入所時に提携医からの説明もありご家族様納得の上で支援をしています。	利用者、家族の希望でかかりつけ医を選択し適切に対応している。クリニックの協力医は内科以外の他科もあり、毎日誰かのところに往診に来て、かかりつけ医ではない人は他科受診で、突発で具合が悪くなった人も対応している。	
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	週に1回、訪問看護師より健康チェックをお願いし、個々の利用者様へのアドバイスも受け必要時には実践しています。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている	医療機関との情報交換は常に出来る様に努めています。		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	ご家族、かかりつけ医、提携医、訪問看護師と共に良い支援が出来る様に連携をとっています。	協力医・ナースが講師を担当し、看取りの研修を開き、職員全員参加している。入居時に事業所の指針を説明し本人・家族の意向を聞き取り、「医療に関する確認書」をもらっている。家族や関係者と方針を共有し急変した場合も適切に対応できるようチームの連携を図っている。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	ホーム内研修、定例会等での勉強会、実際の現場での経験などを活かしています。		

静岡県(グループホーム草薙織音)

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	消防立ち合いの訓練や、会議の後に動きのシュミレーションを実施、日中の地震想定訓練、夜間訓練などしています。	地域の人にも参加してくれ消防署が立会い訓練を行った。質疑応答があり、課題を次につなげるようにしている。通報や地震・火災・夜間想定訓練、防災のシュミレーションで訓練を行っている。防災委員が備蓄の管理をしている。	
<b>IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援</b>					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	その方、その方に合わせた丁寧な声掛けをし対応しています。	周囲に聞こえないように耳元で話しかけている。しっかりしている人でも歯磨きが解らなくなっていたり、パット失禁のある人に周囲に解らないように配慮しさり気ない支援をしている。プライドのある年配者としての丁寧な対応を心がけている。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	その方の希望や決定を出来る限り傾聴しています。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	利用者様のプランに添って、その方に合った支援をしています。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	毎回、同じ服にならない様に気をつけ、出来ない方には一緒に選んだりして頂く事もあります。ヘアースタイルも定期的に行っています。		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	食事の時は、間、間に職員が入っています。その方に合った食事形態にして食べやすくしています。出来る方はご自分で下膳され、片づけも手伝って頂いています。	月1回のお楽しみ昼食は1・2階合同でバイキング形式で行ったり、麺の日・おにぎりの日などあったり、外食に交代で行くことがある。利用者と一緒にホットプレートでおやつを作ることあり、さり気ない介助で楽しく食べられるように支援している。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	一人一人に合わせた食事、水分摂取を支援しています。嗜好など把握しています。水分ゼリー・ジュースにて水分不足にならない様にしています。		

静岡県(グループホーム草薙織音)

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	毎食後、口腔ケアを実施しています。出来ない所は介助させて頂いています。		
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	トイレ誘導の時間を見ながら、声かけをしています。尿意が難しい方にはその方に合わせて誘導をしています。	一人ひとりの排泄サイクルにあわせ上手に声掛けしその人にあつたトイレ誘導をしてトイレでの排泄を支援している。排泄失禁があつても無理のないその人にあつた支援をしている。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	朝食時にはヨーグルトをお出しして、スポーツドリンク、寒天で水分ゼリーを作り召し上がって頂きます。		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々にそつた支援をしている	体調面に気を付けながら無理のない様に入浴しています。ご本人が決めて入られる方もおります。必要時にはスタッフが二人で介助します。	体調を見て医師に相談しながら入浴を決める人もいる。本人の希望で月・水・金で入っている人もいるが、拒否する人に「温泉に行こう」などと声掛けに工夫し浴室まで誘導している。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	年齢の多い方や、体調面を診ながら午前・午後に静養の時間を30分～40分ほど作っています。不眠の場合は原因を考えDrなどにも相談しています。日中の運動や日光浴なども取り入れています。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	誤薬がない様に、服用前には名前と袋を確認し、飲み忘れがないか袋をスタッフ同士で確認し合います。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	毎日、午前中に体を動かしたり、歌ったりと楽しんで参加して頂いています。その方が出来る事に力を発揮して頂いています。		

静岡県(グループホーム草薙織音)

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	気候や天気の良い日を見て周辺の散歩や車での買い物、ドライブ、外食等実施しています。ご家族も来て、一緒に散歩や食事に出かけて下さることもあります。	日光浴が出来るよう洗濯を干したり、近くの無人販売へ買い物や散歩に行くようにしている。家族が来て散歩に連れ出したり、外食などに出かけている。数人ずつ交代でドライブに行くこともある。	
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	ホームにて全員のお小遣いを管理しています。ご本人のご希望があれば職員と一緒に買い物に出掛けます。ご本人が現金を所持している方もいます。本人訴え時少額つつ管理者がお渡ししています。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	ご本人の、ご希望があれば電話やお手紙など対応します。		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	共有の空間は清掃を小まめに行い、利用者様の居室は日々の清掃に加えて担当者が対応しています。利用者様に切って頂いたウエスを使用し使い捨てにしています。利用者様と一緒に貼り絵やお習字などで季節感を出しています。	毎朝窓を開け換気をし、利用者の転倒を避ける為、夜勤者が毎晩床のモップがけや清掃をしている。トイレは除菌と香りに質の良い消毒液を使用していて、嫌な臭いはない。皆の顔が見えるように畳の場所で寝ている利用者がある。玄関には季節の生花が、ホールには季節を感じる飾り付けをしている。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	外にベンチを置いて季節に応じて使用しています。居間のソファも利用し足を延ばしたりとゆったりして頂きます。		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	馴染みの家具などを置いて安心感を持って頂ける様に、お泊りのご希望のご家族には簡易ベッドを用意しています。	ご夫婦で入居している人は一緒にの寝室と家具の部屋で分けて生活している。部屋にぬれタオルを置き加湿をしている。家族が帰省時に泊まれるようにベッドと寝具が施設で用意している。居室担当職員が整理・整頓し収納や飾り付けの工夫をしている。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	洗面場や、脱衣所など安全の為に椅子を置いてあります。個々の物もわかりやすく置いてあります。		

### 1 自己評価及び外部評価結果

**【事業所概要(事業所記入)】**

事業所番号	2274202502		
法人名	(株)日本ケアクオリティ		
事業所名	グループホーム草薙織音		
所在地	静岡県静岡市清水区草薙2丁目22-10		
自己評価作成日	平成 28年 11月 6日	評価結果市町村受理日	平成29年1月13日

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先 <http://www.kai gokensaku.jp/22/index.php?action kouhyou detail 2016 022 kani=true&JigyosyoCd=2274202502-00&PrefCd=22&VersionCd=022>

**【評価機関概要(評価機関記入)】**

評価機関名	株式会社 静岡タイム・エージェント		
所在地	静岡県静岡市葵区神明町52-34 1階		
訪問調査日	平成 28年 12月 12日		

**【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】**

2ユニットを1つの家族と考え、共に支え合い笑顔がたえない生活を目指しています。スタッフ一人一人が、入居者と生活を共にしていることを、意識しゆっくりと関わりを持つようにし、落ち着いた環境でゆっくりとコミュニケーションをとり、看取りも行う状況になってきていますので、一人一人の方に応じた支援を行っています。

**【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】**

**V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1～55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します**

項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印		項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印	
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○	1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらい 3. 利用者の1/3くらい 4. ほとんど掴んでいない	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	○	1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57	利用者職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○	1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○	1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○	1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66	職員は、活き活きと働いている (参考項目:11,12)	○	1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らしている (参考項目:28)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない				

自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>I. 理念に基づく運営</b>					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	職員全員で地域に繋がる理念のアイデアを出し合いその中から色々な言葉を集め作りました。日々申し送り時に会社の企業信条と共に復唱しています。		
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自身が地域の一員として日常的に交流している	利用者様と近くのお店に買い物に出かけたり回覧板を届けたり散歩の途中やホーム前に出ていると声をかけられたりします。		
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	運営推進会議を2か月に1度開催し毎回地域の方々が参加して下さり、そのつながりもあって入居相談を頂くこともあります。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	ホームの近況報告などお伝えして、ご参加の方々から質問やアドバイスなどを頂きます。		
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	必要時に連絡を取りながら協力をお願いしています。		
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	職員に周知し、拘束は行っていません。		

静岡県(グループホーム草薙織音)

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見逃ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	職員同士、意見を交わしながら防止に努めています。		
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	利用者の個人の必要性に応じて対応しています。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	契約時に書面をお渡しして説明し、ご理解、納得された後にサインを頂いています。		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	外部評価実施、意見箱設置、ご家族様ご面会時に状態や状況などお話し、ご相談があればその都度対応しています。		
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	月に1度ホーム会議を実施、カンファレンスも必要時に開催し意見を出しあっています。それ以外にも必要があれば、開催します。		
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	月に1度管理者会議を本社にて開催し、ホームの状況や職員の状態などの報告をしています。本社のセルフストレスチェックも実施しています。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	勤務しながら資格取得の研修参加、ホーム内での職員主導の研修会、ホームDrの研修会実施など。		

静岡県(グループホーム草薙織音)

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	地域包括の主催で3か月に一度、有度地域のグループホームを対象に情報交換を実施しています。		
<b>II. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援</b>					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	入居時にご本人様との面談にて色々お話を聞きながら、希望や、訴えを傾聴してプランを立てて、職員と共有して達成できるようにしています。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	ご家族様からのお話を細かくお聞きして、希望に添える様にプランを立てていきます。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	入居1か月でプランを見直し、入居時の希望に添っているか、今後の必要なプランも合わせて考えていきます。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	日々の中で一緒に家事をしたり、買い物のお手伝いをして頂いたり、食事や入浴時にもコミュニケーションをとりながら過ごしています。		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	月次報告やご面会時など、ご家族に状況などをお伝えし、ご家族からもご要望等お聞きしています。必要であればお泊りもして頂きます。		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	ご親戚やお友達などご面会は自由にして頂き、愛犬共一緒に暮らす事が出来ます。		

静岡県(グループホーム草薙織音)

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	日々の交流を大事にしています。1・2Fの利用者様共にご本人の意思を大事にしながらレクリエーションを実施したり、各ユニットでも利用者様同士の雰囲気懸念される時は階を移動したりして空気を変えます。		
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	退去にご相談があれば支援に努めさせて頂いています。		
<b>Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント</b>					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	個々の利用者様のお話や訴えをお聞きして出来るだけ思いを受け止められるように努力しています。ご本人の行動などからもくみ取れるように職員間で話し合っています。		
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	入所時にアセスメントをとり今までの生活状況を把握して、ご家族や友人の方からも情報を聞くことが出来ています。ご本人との会話の中からも伺う事が出来ます。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	日々の観察や、関わりを通してその方の状態の把握に努めています。		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	定期的にカンファレンスを実施して状態に添った計画に努め、変化も見ながらその都度、話し合いケアの方法など意見を出し合います。		
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	ケース記録を関わりで記録し、支援日誌からケース記録を参照し詳細を把握します。申し送りノートなども活用して情報を共有統一しています。		

静岡県(グループホーム草薙織音)

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	状態に変化が見られた時など、その都度話し合っって方向を考えます。		
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	サレジオ学園の生徒さんたちが年間を通して行事の時に訪問して下さり、他のボランティアさんたちの協力も頂いています。		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	以前よりのかかりつけ医、新たな提携医の往診により診療して頂いています。入所時に提携医からの説明もありご家族様納得の上で支援をしています。		
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	週に1回、訪問看護師より健康チェックをお願いし、個々の利用者様へのアドバイスも受け必要時には実践しています。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている	医療機関との情報交換は常に出来る様に努めています。		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	ご家族、かかりつけ医、提携医、訪問看護師と共に良い支援が出来る様に連携をとっています。		
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	ホーム内研修、定例会等での勉強会、実際の現場での経験などを活かしています。		

静岡県(グループホーム草薙織音)

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	消防立ち合いの訓練や、会議の後に動きのシュミレーションを実施、日中の地震想定訓練、夜間訓練などしています。		
<b>IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援</b>					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	その方、その方に合わせた丁寧な声掛けを し対応しています。		
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	その方の希望や決定を出来る限り傾聴して います。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように 過ごしたいか、希望にそって支援している	利用者様のプランに添って、その方に合った 支援をしています。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように 支援している	毎回、同じ服にならない様に気をつけ、出来 ない方には一緒に選んだりして頂く事もあり ます。ヘアースタイルも定期的を実施してい ます。		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好み や力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備 や食事、片付けをしている	食事の時は、間、間に職員が入っています。 その方に合った食事形態にして食べやすく しています。出来る方はご自分で下膳され、片 づけも手伝って頂いています。		
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて 確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応 じた支援をしている	一人 一人に合わせた食事、水分摂取を支 援しています。嗜好など把握しています。水 分ゼリー・ジュースにて水分不足にならない 様にしています。		

静岡県(グループホーム草薙織音)

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	毎食後、口腔ケアを実施しています。出来ない所は介助させて頂いています。		
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	トイレ誘導の時間を見ながら、声かけをしています。尿意が難しい方にはその方に合わせて誘導をしています。		
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	朝食時にはヨーグルトをお出しして、スポーツドリンク、寒天で水分ゼリーを作り召し上がって頂きます。		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々にそった支援をしている	体調面に気を付けながら無理のない様に入浴しています。ご本人が決めて入られる方もおります。必要時にはスタッフが二人で介助します。		
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	年齢の多い方や、体調面を診ながら午前・午後に静養の時間を30分～40分ほど作っています。不眠の場合は原因を考えDrなどにも相談しています。日中の運動や日光浴なども取り入れています。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	誤薬がない様に、服用前には名前と袋を確認し、飲み忘れがないか袋をスタッフ同士で確認し合います。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	毎日、午前中に体を動かしたり、歌ったりと楽しんで参加して頂いています。その方が出来る事に力を発揮して頂いています。		

静岡県(グループホーム草薙織音)

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	気候や天気の良い日を見て周辺の散歩や車での買い物、ドライブ、外食等実施しています。ご家族も来て、ご一緒に散歩や食事に出かけて下さることもあります。		
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	ホームにて全員のお小遣いを管理しています。ご本人のご希望があれば職員と一緒に買い物に出掛けます。ご本人が現金を所持している方もいます。本人訴え時少額つつ管理者がお渡ししています。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	ご本人の、ご希望があれば電話やお手紙など対応します。		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	共有の空間は清掃を小まめに行い、利用者様の居室は日々の清掃に加えて担当者が対応しています。利用者様に切って頂いたウエスを使用し使い捨てにしています。利用者様と一緒に貼り絵やお習字などで季節感を出しています。		
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	外にベンチを置いて季節に応じて使用しています。居間のソファも利用し足を延ばしたりとゆったりして頂きます。		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	馴染みの家具などを置いて安心感を持って頂ける様に、お泊りのご希望のご家族には簡易ベッドを用意しています。		
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	洗面場や、脱衣所など安全の為に椅子を置いてあります。個々の物もわかりやすく置いてあります。		